

『事例で学ぶ～人間理解を深める～男性性とは』

◆講師：中村 正 先生

(立命館大学学長特別補佐 応用人間科学研究科 産業社会学部教授)

◆日 時：2017年9月24日(日)

14時～17時15分

◆場 所：チサンマンション第7新大阪 1階貸会議室

大阪市淀川区西中島6-2-3 (当会事務所があるビルの1階です)

(地下鉄御堂筋線『西中島南方駅』、阪急京都線『南方駅』徒歩5分、JR『新大阪駅』徒歩10分)

※2単位申請中

相談場面においては、様々な悩みや問題を抱えた相談者と出会うことが多くあります。相談員としてそうした苦しみや迷いを共感的に受けとめ寄り添いながら理解し、相談者が自分自身の問題として向き合っていくプロセスを援助していくことが大切です。また、様々なより広い視点を持つことは人をより深く理解することにもつながります。

今回は、昨年度ご講義いただき、大変わかりやすく再受講の希望が多かった中村正先生に再度、ご講演頂きます。豊富な臨床経験と専門的な研究に取り組んでこられている中村先生から、男性性の視点による、目からうろこの新たな人間理解の枠組みを学びたいと思います。

この機会に是非ご参加ください。

【講師プロフィール：中村正先生】 現在、立命館大学学長特別補佐。大学院応用人間科学研究科/産業社会学部教授。社会病理学、臨床社会学、社会臨床学、男性性が専門領域。少年刑務所、児童相談所でのスーパーバイズや相談、研修、触法障がい者の社会復帰支援や高齢者虐待における養護者支援の現場で、暴力と虐待の臨床をおこないつつ研究されており、「男性性研究と臨床ジェンダー論」「暴力臨床実践理論」「対人暴力の臨床社会学」などのテーマに取り組まれています。著書・共著には『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版、1996)、『家族のゆくえ』(人文書院、1998)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社、2001)、『家族の暴力をのりこえる - 当事者の視点による非暴力援助論』(かもがわ出版、2001)、『病める関係性—ミクロ社会の病理』(学文社、2005)、『社会病理のリアリティ』(学文社、2006)、『身体をめぐるレッスン/第4巻・交錯する身体』(岩波書店、2007)、『対人援助学の可能性』(福村出版、2010)、『なぜ夫は、愛する妻を咬るのか』ダットン著・中村正訳(作品社、2001)、『虐待者パーソナリティの研究』ダットン著・中村正監訳(明石書店、2011)、『加害者臨床』(廣井亮一編、日本評論社、2012)、『対人援助学を拓く』(晃洋書房、2013)、『離婚紛争の合意による解決支援と子どもの意思の尊重』(日本加除出版、2014)他多数あり。